

日蓮聖人の御遺文と地球温暖化

三 谷 祥 祐

一 地球温暖化 (Global Warming)

三十年も前のことです。月から帰還したアポロ十七号のサーナン船長さんを私の知人がお連れして見えたことがありました。宇宙に浮かぶ地球の美しさ、月での体験などを話され、楽しいひと時を享受したことを覚えています。人類を月へ送るといふケネディ大統領の悲願が達せられたアポロ計画はこの十七号で終結しています。

現在、地球の病的な各地の様相を見ますとサーナン船長やスペースシャトルエンデバーに乗った宇宙飛行士毛利衛さんたちの言葉「かけがえのない命の地球」が重大な響きを持つて去来します。アポロが月面に降り立ったころ、すでに日本では公害病が発生しておりました。繁栄の象徴である工場の煙が大気を汚染し、工場の下水道から川や海へ流される廃液が水質を汚濁していたのです。有害な化学物質が空気や食べ物を介して人体へ取り込まれ、水俣病、イタイタイ病、四日市喘息、カネミ油症が発生しました。石油化学コンビナートの煙突が群れ立つ四日市の町で、洗濯物や日に干す布団の上に黒ゴマのような硫酸化合物が一面に降り注がれていたのを私は見えています。

アメリカでは一九六二年に女性の生物学者レイチェル・カーソンさんの著書『沈黙の春』により、殺虫剤や化学物質が環境を汚染し「鳥の鳴き声が聞こえない」というシヨッキングな内容が世に告発されました。化石燃料による酸性雨が生態系を脅かし、フロンガスがオゾン層を破壊していることに気づき、その心配はいまも続いています。

現在、世界は化石燃料の大量使用により二酸化炭素（CO₂）が大気を温暖化し、異常気象や環境破壊が起こっています。将来は水不足、食料不足、エネルギーの不安、海面上昇、海岸線の水没など広範囲のあらゆる事態が懸念され、すでに発生しています。私たちは何をどのように対処し行動すればよろしいのでしょうか。

地球の気温は平均十五度ですが、温室効果ガス（CO₂）などの大量排出により太陽の入射熱と地球の放射熱とのバランスが崩れてしまい気温は上昇し大気の大気対流の中で気圧配置が移動し自然のサイクルが変動しています。九月に上陸した台風九号が東北地方へ去ったにもかかわらず大阪の自坊では午前中、突発的な集中豪雨があり恐怖を感じました。天候に秩序がなくなり雨の降り方が変わってきています。中国では洪水と干ばつが起り、十一月には赤道直下のコロンビアの首都ボゴタで大量のひょうが降り、埋まってしまった七十台もの車を掘り出す作業が動画ニュースで送られて来ていました。この気候変動による異常気象は豪雨、旱魃、渇水、台風（ハリケーン）、山火事、温暖、寒冷、凍結、豪雪、寒波、寒波など世界に甚大な被害をもたらしています。夏、都会のビルやアスファルトの道路にもった熱、車の排気熱、クーラーから吐き出される熱風などが、辺りの気温をより高めるヒートアイランド現象は熱中症や熱帯夜を引き起こします。集中豪雨は山林を崩し建造物を破壊し、濁流は川、街、階下、地下鉄へと浸水して行きます。温暖化の水位上昇により水没する日本の地域を文部科学省のシミュレーションが映し出しています。

二 京都議定書 (Kyoto Protocol)

京都議定書（京都プロトコル）は一九九七年十二月、京都で世界各国の代表による京都会議が開かれ締結されました。この議定書の正式名称は『気候変動に関する国際連合枠組み条約の京都議定書』です。京都議定書で注目されるのは、排出量、排出権、排出量取引が定められたことです。産業や生活のエネルギー、自動車の排気ガスなどの影響

で大気の温度が平均値を越えて温暖化し異常気象、環境破壊を引き起こしている原因の温室効果ガスと呼ばれる二酸化炭素（CO₂）など計六種類の化学物質の排出の削減値を決定し、日本は六パーセント、アメリカは七パーセント、EU諸国は八パーセントなど各国の削減目標が採択されました。六種類の化学物質（CO₂、メタン、一酸化窒素…など）はそれぞれ濃度が異なるためCO₂に換算して計上しそれを総称してCO₂と呼んでいます。一九九〇年度のCO₂、メタン、一酸化窒素の三種類のガスと一九九五年の三種類のガス（二種のフロン類と六フツ化硫黄）の合計値を基準年一九九〇年比CO₂として計上しています。日本は「一九九〇年度の温室効果ガスの排出量（十二億六一〇〇万トン）から六パーセント少なくします」という約束であり、五年間で九十四パーセント（五十九億二六七〇万トン）を越えない取り決めます。

二〇〇七年度のノーベル平和賞は国連が関与するIPCC（気候変動に関する政府間パネル）とアメリカのアル・ゴアさんが受賞されました。温暖化による地球の異変を世界に知らせ、温室効果ガスの削減を訴え続け人類の危機を世界の人々に認識させた貢献です。アル・ゴアさんは、当時、クリントン政権下の副大統領として来日し京都会議を円滑に推進されました。日本は人類有史以来、初めて直面する大難問である温暖化を主題とした京都議定書締結へ各国の同意を得る大役を果たしたのです。ノーベル平和賞は平和の維持貢献に与えられる賞ですが、従来の和平、軍縮、人道から新たに『環境』の大切さが重大視されました。地球温暖化を防ぐことが世界平和につながる証明となったのです。アメリカは独自の経済理論により京都議定書から離脱しましたが、賢明なアメリカ国民は州単位で京都議定書に批准した倫理行動を取っています。めざましい経済発展を続けている中国、インドは発展途上国とされているため削減の義務を課せられてはおりませんが地球危機への関心は非常に高まっています。

排出権取引は温室効果ガスの排出権削減数値を差し引くシステムで三通りあります。

① 先進国が途上国で削減事業を開発し、得た数値を自国の削減に割り当てる。② 先進国が他の先

進国での削減事業に協力した削減数値の一部を自国の削減に割り当てる事が出来る。③ 京都議定書の削減数値目標よりも成果の上があった先進国からその差額分の削減数値を売り買いする排出権取引。この三つです。

③は金銭で他国の削減努力を買うという巧妙なシステムです。過剰排出国が自国の過剰分を過少国から未排出量をお金で買い取り引き算して「辛うじて達成できました」とする実体のないものを売り買いする排出権取引は、実質的には自国の排出量を下げたことにはなりません。出していない架空の排出量を売ってくれる国があり、莫大な金を払う力があれば過剰国の埋め合わせは実現しますが、それはただ紙の上で計算して報告しているにすぎないのです。大気中のCO₂は一パーセントも消滅はしません。排出過剰だと言って毎年他国から買い続けるわけにもいきません。排出量が削減できない場合、国の生産や経済活動の規模の縮小を自主的に且つ法令的に定める必要が起ってくるでしょう。そうなりますと国民の生活にもさまざまな影響が出ます。排出量の削減と自然エネルギーの活用を、住民と自治体が一体となり協力し実現することが望まれます。京都議定書は地球保全のための関門です、EUは昨年十二月の温暖化防止国際会議で二〇五〇年までに一九九〇年比でCO₂を半減することを宣言していますが目標レベルはさらに高くなるでしょう。

温暖化による豪雨、早魃など気候変動の犠牲にさらされるリスクが大きいのは途上国です。電気も清潔な飲み水もない途上国や内外の貧困層へ積極的な支援がなされることを期待します。

気候変動は温暖化と寒冷化の両極端な現象を引き起こします。地球温暖化で氷河崩壊、渇水、熱波が起り、寒冷化で豪雪、寒波が襲います。世界各地の気候変動は先行き予測のつかない事態が懸念されています。温室効果ガスの濃度が年々上昇のため温暖化し地球規模の気候変動が起こっているわけです。その変動が別な地域には豪雪、寒波などの正反対の現象となっています。

京都議定書の約束は来年（二〇〇八）から二〇一二年までの五年間内の取り決めですから、十三年以降は新たな取

り組みが始まります。この取り組みを総称して『ポスト京都』と呼んでいます。CO₂を八十パーセント削減しても温暖化は進行するといわれています。四十二年後の地球はどんな世界になっているのでしょうか。今世紀半ばに人口は九十億を突破すると予測されています。食糧、水、医療などが生きるための最低ラインの確保が全人類に行き渡っていないのですから、先進国も発展途上国も経済の中庸を締結して人命救済の努力を望みたいものです。物の限度、これで充分、もったいないと感じる人間の品格とモラルが見直されています。販売食品の賞味期限、消費期限の問題があります。原材料の表示の誤記のため賞味期間内の商品を廃棄され、動物や植物の命、店頭に並ぶまでの材料、経費、労力、時間などが非情にも捨てられました。食品を扱う店舗の過度のチェーン化に問題もあります。食物を捨てることなどしてはならない恥ずかしいことなのです。計画性のない行き当たりばつたりの行為です。生活苦の人、飢餓、貧困の地で生きる人たち、戦争や災害、環境難民がいます。食材、食品、包装するパッケージなど外国での生産と労働力に負うところが大きいのです。物を捨てることは愛を捨てることです。

二〇〇八年七月七日から九日まで北海道の洞爺湖地域に世界の代表が集結して洞爺湖サミットが開催されます。京都議定書を基調とした約束の一年目のスタートです。世界各国の温室効果ガス削減努力の経緯や進展と共に困難も露呈されるでしょう。途上国に削減義務を求めるためにも議長国日本の姿勢が注目されています。

三 生物多様性と地球の未来

生物多様性とは、世界中に分布している動物、植物、微生物と生存環境、遺伝子の状態、をさします。これは三つのレベルに分類できます。

『個体』（遺伝的多様性）——各個体が持つ遺伝情報の総計（一〇％絶滅危惧）

『種』—地球上の全生物種の総計（二〇％絶滅危惧）

『生態系』（エコシステム）—生物が他の生物と相対する適応圏（三〇％絶滅危惧）

何千万年もかけて進化しヒトと共に生き延びた哺乳類の二十パーセント近くが絶滅の危機に陥っています。人為の越境により生態系は弱体化しています。戦争、核の事故、核の実験などで自然を破壊し生物絶滅の危機を招き、猛毒の噴霧のため遺伝子の劣化が進み無精子や種のメス化が問題になりました。日本では現在、三一五五種が絶滅危惧種になっています。

I P C C（気候変動に関する政府間パネル）は、気候変動をもたらす地球温暖化に対して全世界数千人の専門家や科学者からの報告書や調査書を評価する組織です。国連のパン・ギムン事務総長はI P C Cの報告として「今世紀末に世界の気温は六・四度上昇し海水面上昇や干ばつの増加は避けられず回復不可能な影響がある」と非常事態を警告しています。日本の科学技術庁のスーパーコンピューター・地球シミュレーターは一〇〇年後の世界を次のように予測しています。「温暖化による海面上昇は二億六千万人が環境難民となり、アマゾンの熱帯雨林が消失し巨大な砂漠と化す」。

この予測に戦慄を覚えますが、アマゾンの熱帯雨林は伐採、開墾、雨量の減少、石油の発見、採掘など近代化の波が押し寄せており、巨大な雄姿が壊れ続けています。南米大陸にそびえるアンデス山脈の氷河が急激に融解、後退、消滅しつつあると報道され、アンデスを水源とする世界一の大河・アマゾン川に渇水の被害エリアが発生し、孤立した村々は飢餓と伝染病の脅威に冒され、ヘリコプターで物資を運んでいるニュースが報道されました。大量に酸素を生み出すアマゾンの未来は深刻です。世界各地では気候変動による異常な事態が続いています。

温暖化のため世界の山岳の氷河や極地の氷が溶けています。エベレスト近くのヒマラヤの氷河の融解により氷河湖が拡大し、湖水が激しく溢れ出していて決壊が心配されています。中国砂漠の黄砂、森林伐採による粉塵、それらに

含まれる汚染物質、炭鉱から吐き出されるアジアンヘイズ（石炭の粉末）が風につれて海を渡り日本に運ばれています。中国内モンゴル自治区のアラシャン盟は砂漠拡大による砂嵐を防ぐためグリーンベルト計画により植樹や野菜の育成地を整えています。インドネシアの森林火災は木ばかりではなく地面の中の泥炭地も燃えるためCO₂が大量に排出されました。アメリカでは十月のカリフォルニアの山火事は高温、乾燥、強風のため東京都の面積ほどの被害を生じたと言われています。富士山の永久凍土も後退しており樹木や植物の生育に気候変動が影響しています。北極、グリーンランド、アイスランドなどから送られてくる情報を見ますと、昔、氷で覆われていた北極は海面が広がりが氷の崩壊する海域では海中面がシャーベット寸前の姿になっています。氷の張る時期が遅く氷上を歩いて遠くまで狩に行けないホッキョクグマは、よじ登る氷盤を探して何十キロも泳ぎ続けて溺れています。氷上に手をかけると氷が薄く割れてしまい体を休める水が見つからない不幸な結果です。国際自然保護連合はホッキョクグマを絶滅危惧種として「レッドリスト」に指定しています。サンタクロース公認の夢の国グリーンランドは北極海の北大西洋側にあります。国土の八割が万年雪と氷床で覆われており巨大氷河が流れ出しその流れが加速し海へ崩落しています。雪氷と広大な氷床の融解や氷河湖が決壊しますと世界の潮位が上昇し融氷の真水が海流や海温を変えてしまう恐れがあります。北極圏の最北の島、スバル諸島の氷床から解けた水が地球の涙のように北極の海へ落ちていきます。自然の美しさとはどうい思えませんか。過去と現在の映像を照合しますと年々氷床面が後退を続けているため傾いて半壊している家屋もあります。

南極はアメリカ大陸の一・五倍も広い巨大な岩盤の島で、その上に何万年も降り続いた雪が凝結した氷に覆われていて、氷の厚いところでは四〇〇〇メートルもあり淡水の巨大湖があり、氷河が海へ流れ両岸の棚氷が海への崩壊を続けており海面は上昇しています。山岳氷河や南極、グリーンランドなど陸地の氷が解けますと風呂の湯が溢れるように海面は上昇します。科学者が百年は持つと言われていた南極の棚氷が一ヶ月あまりの間に崩落したと言います。

ツバル、フィジー、トンガ、ベネチア、スリランカやアフリカの一部の地域など水没の危機が予測される地域が世界に多くあります。その危機の時、住民は安全な国へ移住を終えていると思いますが、何十万、何百万人の環境難民や国ごとの移動が起こってきますと安全地帯へ逃れる人たちを受け入れる国の形態や国境の変更、摩擦が起こることも考えられます。将来の最大の心配事は水と食料です。きれいな飲み水に恵まれない地域では伝染病が発生します。

食糧自給率とは国民が食べる食糧の国内産の割合ですが、先進国の食糧自給率は国民を守る高い水準を保っていますが、日本の食糧自給率は三十九パーセントの貧しい状態です。身土不二の暮らし、地元で出来たものを食べる生活が失われ、近代化、輸入化と共に食のルートが変わってしまいました。食糧の六割が輸入ですから、輸入先に気候変動が起これば食糧は入ってきません。農作物の不作はすでに起こっています。六割も輸入している食糧を生産するための膨大な量の水（バーチャルウォーター）と燃料エネルギーが他国に委ねられている現状です。そのCO₂を加算しますと日本の温室効果ガスの排出量は実際にはより多くなります。他国で消費する自国のためのエネルギーを私はバーチャルエネルギーと名付けています。

日本は世界唯一の被爆国であり戦争や環境への関心度が非常に高い国です。地震多発国、経済大国、エネルギー使用大国で国民一人に換算しますと世界平均の二・五倍も使用しています。国民の命の要である資源エネルギーや食糧を外国の力を頼みとしている輸入大国です。我が国は世界で生産される食糧の支えにより成り立っています。このためにも温暖化防止対策は国をあげて取り組むべき緊急課題です。温暖化を防ぐことが世界平和へつながることを念頭に、国や企業や私たちは自然環境を守り世界の人々を守りご恩返しをするという精神を持って国際社会に貢献していくことが大切です。

四 二十一世紀の『立正安国論』と宗教界の使命

文応元年（一二六〇）七月十六日、日蓮聖人三十九歳の時、天変地異が勃発する鎌倉の世で『立正安国』を著され、鎌倉幕府の前執権（北条時頼）最明寺入道時頼に呈上されました。日蓮聖人は決死の覚悟で世の救済を考えておられたのです。現代の私たちの誰一人として目にしたことのない凄惨な事態が鎌倉に起こっていました。当時の様子が、『立正安国論』の冒頭に激白されています。現存する御真蹟は漢文で、墨で書かれた卷子本です。左記は冒頭のご文章です。

旅客来嘆曰、自近年至近日、天変地天、飢饉疫癘、遍滿天下、広迸地上、
牛馬斃巷、骸骨路充。招死之輩、既超大半、不悲之族敢無一人。

「旅客来たりて嘆いて曰く、近年より近日に至るまで、天変・地天・飢饉・疫癘・遍く天下に満ち、広く地上に迸る。牛馬巷に斃れ、骸骨路に充てり。死を招くの輩、すでに大半に超え、これを悲しまざるの族、あえて一人もなし：」

立正安国論を何度拝読してもこの冒頭、（牛馬斃巷、骸骨路充）の八文字に絶句します。「この非常に凄惨な状況に悲しまない者は誰もいません。みんな悲しんでいます」と文中に悲嘆を告げています。平和で安穩な生活が天災によって壊されてしまったのです。「死を招くの輩すでに大半に超え」と言っています。日蓮聖人の知り合いも亡くなっておられたのかもしれない。「斃れ、充てり」の言葉に、重なり積もっていく悲しみの深さを知らされます。立

正安国論を拝読されたことのない人々も、この文章にどんなにか心うたれることと思います。あまりにも悲惨で無残な時世をひたすら生きていた人たち。生活の場所や暮らしの様子こそ違え、私たちのご先祖のほとんどの人たちが鎌倉時代を日本のどこかで生きていたのです。空や畑の様子見て暮らしていた人たちが天災地変により変貌してしまった恐怖と慟哭の深さは計り知れません。今も昔も天災や戦乱による大難は平和を破壊し人心を恐怖に落とし惑わせ、生活手段のすべてを攪乱させ希望を失わせます。

日蓮聖人は釈尊の説かれた經典から法華經の信仰による救済を解き明かされ、平和への希望を引喩されました。法華經の觀世音菩薩普門品には多難が警告されています。心地觀經には薬師經の人衆疾疫難の変わりに悪鬼疾病難、国土飢饉難が加えられ八大恐怖として警告されています。薬師經から七つの恐怖を引用された立正安国論の大難を列挙しました。（・・・）内は私の解釈です。

人衆疾疫難（多くの人が伝染病にかかり命の危険にさらされる）

他国侵逼難（外国から攻め込まれ侵略される）

自界叛逆難（自国内に反逆者が出て戦乱が起こる）

星宿變化難（天や星の様子や運行に異変があり変事が発生する）

日月薄蝕難（太陽や月の光に力がなく災いが起こる）

非時風雨難（時期はずれの強風や豪雨が農地や家に被害を与える）

過時不雨難（雨季に降雨がなく田畑の水や飲み水が枯渇する）

いつの世においても自然災害はありますが、人類が始めて直面している近年の地球異変は世界各地にわたる大難で

あり日々の気候変動を確認しないと数ヶ月先が読めないというほどの逼迫したものになっています。現在の地球に起こっている内乱や紛争、気候変動による大被害などは立正安国論の大難に匹敵する出来事です。立正安国論の国の最小単位は我が家であり最大値は全世界であると私は考えています。ミャンマー立正安国論、チャイナ立正安国論、イラク、ルワンダ、アフガニスタン、パキスタン、インド、スリランカ、アメリカ……平和を求めるそれぞれの国の立正安国論の大難が見えてきます。

地球温暖化は人類の平和を壊し生命を奪っています。自然のリズムが効かなくなり錯乱した大風は世界を吹きわたっています。平和と安らかな治世をねがい勇断告発された『立正安国論』は悠久平和の世界観に立脚しています。二十一世紀のいま、立正安国論を拝読しますと日蓮聖人の毅然たる決意がどんなに大変でいのちがけのご勇断であったことかと深く胸打たれます。鎌倉の辻説法が、いまのこの世において温暖化防止を説く師子吼に呼応します。日蓮聖人の強靱な精神を学び享受する人は世界平和のために温暖化防止を伝道する使命をゆだねられています。見識ある人は、極地やアイスランドの巨大な氷床の崩落を、滴り落ちる水河の涙を、じわじわと忍び寄る水位の上昇を知れば病んでいる地球を助ける衝動に駆り立てられるでしょう。

弘安五年（一二八二）御年六十一歳の八月二十一日、日蓮聖人は『身延山御書』に「誠に身延山の栖はちはやぶる神も恵みを垂れ、天下りましますらん……」と自然の美しさを讃えられました。終の棲みか身延から湯治に出立される前の月に著述された詠嘆の書です。お山の自然美は日本の四季の美しさを象徴しています。

二〇〇七年八月、京都で日本宗教代表者会議主催の「比叡山宗教サミット―世界宗教者平和の祈りの集い―」が開かれ、温暖化は生態系を破壊し人類生存の危機であることを発表されました。

世界宗教者平和会議日本委員会（W C R P）は温暖化防止を政府の優先政策に希望する主旨を各政党へ要請されました。恒久平和を希求する宗教界は温暖化防止への取り組みが早急の課題です。温室効果ガス削減のために宗教界の

内部からの改善、具体的な目標設定の掲上、温暖化防止対策の緊急実施が求められています。地球を取り巻く環境が病んでいる今、その事実に向き合い、地球の自然回路が壊れていくドミノの流れにストップを掛けなければなりません。その伝道は宗教者の役目です。宗教者は人間の命、祈りの傍に寄り添う立場にあります。温暖化の現実を壇信徒さんにお知らせし、祈りと努力によって世の中を平和に導く使命があります。世界各国共通の温暖化問題を全世界の宗教界の対話のトップに掲げ、積極的且つ具体的な英知の結末を期待します。子供たちは「地球は一つの運命共同体」であることを認識し、過去、現在の正と負の遺産を背負いながら未来に向き合っています。

日本政府は国民、企業、団体に対して温室効果ガスの削減を求めています。産業界など温室効果ガスの大量排出分野の各企業と全国都道府県は策定が義務づけられ削減数値目標と達成度を報告し揭示しています。インターネットの「地球温暖化防止推進センター」で日本全国の様子を閲覧できます。排出量の削減目標を達成した県、目標の削減が出来ずにCO₂排出が目標より増えている県もあります。その理由など問い合わせますと説明を頂けます。日本全国都道府県の温暖化対策の推進度は、企業や県民一人ひとりの努力のバロメーターです。

将来、外国から購入するエネルギー獲得には法規制がかかるといわれています。国内でも電気やガスの節約が当然です。石油、石炭、天然ガス、など、遅かれ早かれ使用リミットが来ます。石油は今世紀の終わりを待たずして枯渇するといわれています。

膨大な人口をかかえる世界は将来、水や食物の法規制が起こるのではないかとの危惧をいただきます。いま私たちの中で出来ることは何でしょうか。身の回りを見つめますと地球を痛める行動を知らずのうちに取っていることに気づかされます。過剰な経済文明の恩恵の中で暮している私たちはするべきことを知っていても踏み出せない弱い自分があります。地球温暖化防止への第一歩は温暖化の現状を知ることです。第二歩は自分の心に立ち向かうことです。第三歩はモラル（道徳）に沿って前進することです。つまり温暖化の認識はモラルの認識です。京都議定書の悲痛な叫び

を真剣に討議する時を迎えています。

五 文学に見る未来図

法華経を信仰された宮沢賢治さんが亡くなられたのは一九三三年ですが、その年の最高気温は今年、二〇〇七年と同じ四十・一度を記録しています。宮沢さんの童話に『グズコーブドリの伝記』があります。一人の火山技師が自分の命を犠牲にして冷害による飢饉の村を救う話です。その話の終盤に、炭酸ガスが増えると温かくなり世界の気温が高くなる話があります。それは人間の欲から起こっていることを告げています。たとえ一部の地域の利益であつても、自然世界に無理をかけるとその影響は地球全体を包んでしまう、そしてその地域の利益は一時のものであつて、破滅と欲望を繰り返す人間の愚かな行為であることを読者は感じ取ります。宮沢賢治さんの『農民芸術概論綱要』の序文には、「新たな時代は一の意識になり生物となる方向にある」と執筆されています。宮沢賢治さんは世界の環境が破壊される危険性を予見されていたのです。

今から五十年前、安部公房さんはSF小説『第四間氷期』を執筆されました。内容は次の様なものです。

「予言機械は地球規模の水位の上昇により世界各地が水没することを予測した。海面の上昇は、太陽の黒点の異状や産業活動により温暖化をもたらす二酸化炭素の影響もあり、水河の融解と海底火山が頻繁に起こっているからだ指摘する。胎児が海中で生きられるように水棲人間に進化させるプロジェクトが成功する。鉄道も発電所も海に沈み人間の住む場所が狭くなった。陸地に残された人々は土地の取り合いで争い、政府も海へ移動する」

あとがきに「未来の残酷をよびさまし、対話を誘発することがこの小説の目的である」と結んでいます。安部公房さんも地球温暖化の末路を予測してみえたのです。

地球の過去の記録を見ますと、いまの地球は間氷期にあたるようですが、間氷期とは氷河期が終わり次の氷河期が来るまでの温暖な過渡期を差します。一九二二年四月深夜、イギリスの豪華客船タイタニック号が北大西洋にあるニューファンドランド沖合を航行中、流水群のひしめく海域で氷山と接触し海中へ没しました。この海難事故は一五〇〇人以上もの犠牲者を出しました。タイタニック号の悲劇は今日の温暖化の序章であるといわれています。この頃、宮沢賢治さんは十八歳でしたが、後年、『銀河鉄道の夜』に氷山の事故を書いています。奇しくもこの『銀河鉄道の夜』の音楽はタイタニック号の乗客で救助された日本人のご家族の方が作曲をされました。賢治さんは故郷花巻で『日光』や『希望』という輝く赤いバラを愛されました。法華經の信仰を通して自然を愛し珠玉の作品を発表し平和を望まれたのです。これからの世の中は宗教、科学、文化、産業界などのすべての社会に現実と未来の融合を保つモラルのある道が約束されることを願います。

了

二〇〇七年十一月六日

二酸化炭素を削減する方法・エコ（省エネ）対策

- 一、水を出しっぱなしにしない（歯磨き、シャワー、洗い場）・湯水の節水
- 一、エアコンの温度の設定（夏は二十八度冬は二十程度度）

- 一、電気器具のフィルターを掃除・タイマー機能のある製品を使用
- 一、不使用の電気プラグはコンセントから抜く。お湯ポットの保温をやめる
- 一、白熱電球を電球型蛍光灯（CFLに）交換
- 一、冷凍食品よりも生鮮食品を買う（解凍に電力の消費）
- 一、冷蔵庫の整理（買すぎ、詰めすぎ、期限切れ 腐らせない）
- 一、必要なものを買う（余った物、食品を捨てない）
- 一、牛肉料理を考える（牛の胃袋のメタンガスは有害・生育に水・飼料多大）
- 一、風呂の残り湯を有効利用する（洗濯、植木）・植林に協力、保護
- 一、不必要に石油製品（石油から出来ている品）を購入しない
- 一、遠方の物を購入しない（生産地が遠いほど輸送のためのCO₂が負荷される）
 - （輸入品は外国に生産と輸送の二重のCO₂を負荷する）
- 一、近隣の物を買う（身土不二の生活・長寿養生訓）
- 一、環境へのマナー（空き缶・ゴミ・タバコ・ちり紙など路上に捨てない）
- 一、車の停車時にエンジンを切る（アイドリング・ストップ）
- 一、車を早く走らせない（近隣は自転車、路線圏内の移動は電車）
- 一、カーシェアリングを利用する（一台の車を複数の会員が必要時に使う）
- 一、自動車の利用を減らす（歩く、自転車や公共の乗り物を使う）
- 一、CO₂を出さない自動車に乗る（車を利用する必要の是非を考える）

（大気汚染物質を排出する燃料は使用しない。車の所持を減らす）

（バイオエタノール・バイオディーゼル燃料・ハイブリッド車）

- 一、川や海を汚さない（汚れ物を捨てない。家庭ゴミのリサイクル）
- 一、温暖化対策に便乗するCO₂削減の名目の商品が必要なのか検討する
（新商品の購入はその製品の生産と不要製品の処分CO₂が排出）
- 一、温暖化の現状とCO₂削減の対策を他の人に伝え一緒に努力する
- 一、食糧自給率四割を切り六割輸入に頼る日本の食の安全安心安定を考える
- 一、自然の恵みに感謝する、原始の生活をシミュレーションする
- 一、他に出来ることがないか家族で話し合う

〔参考文献・研究・取材先〕

昭和定本日蓮聖人遺文（日蓮宗総本山身延山久遠寺）

日蓮宗電子聖典（日蓮宗）

立正安国論綱要（清水龍山著）

貞観政要（明治書院）

平成十九年度版 環境白書（環境省編）

日本のエネルギー開発（科学技術庁）

不都合な真実（Al Gore 著 講談社）

地球の掟（Al Gore 著 ダイアモンド社）

地球温暖化を考える (宇沢弘文著 岩波書店)

沈黙の春 (Rachel Carson 著 新潮社)

メス化する自然 (Deborah Cadbury 著 集英社)

わたしと地球の約束 (セヴァンカリス・スズキ著)

あなたが世界を変える日 (セヴァンカリス・スズキ著)

12才の少女が環境サミットで語った伝説のスピーチ

氷に刻まれた地球十一万年の記憶 (リチャードBアレイ著 中央大図書)

氷河期へ向かう地球 (根本順吉著 風涛社)

地球温暖化の政治学 (竹内敬二著 朝日選書)

消える氷河 (桐生宏人著 毎日新聞社)

グズコーブドリの伝記 (宮沢賢治 扶桑社)

農民芸術概論綱要 (宮沢賢治 リーベル出版)

第四間氷期 (安部公房 新潮社)

シネマ・レポート (不都合な真実 ダーウインの悪夢 北極のナヌー)

環境省 気象庁 外務省 文部科学省 農林水産省 経済産業省 文化庁 国土交通省

京都府庁 大阪府庁 北海道庁 青森県庁 静岡県庁 宮崎県庁他

全国地球温暖化防止活動促進センター (JCCCA)

(株) 文化時報社 (株) 朝日新聞 (株) 毎日新聞 (株) 日本経済新聞

(株) トヨタ自動車 (株) 日産自動車 (株) ホンダ自動車